

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270201536		
法人名	有限会社 ポールハールト		
事業所名	グループホームハールト		
所在地	青森県弘前市大字中崎字苧田260-2		
自己評価作成日	令和3年7月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉協法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和3年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニットという利点を活かし、家庭的な雰囲気の中で自由で安心した生活がおくれるように支援している。変化する利用者様の機能や生活状況を全職員で意見交換し、情報を共有することで一人ひとりに対応した一貫性のある介護を目指している。

開設者の思いや理念が引き継がれ、1ユニットの特性で笑顔あふれ、寄り添い、ほっと安らげるホームであり、地域の一員として地域に根差した生活をしている。コロナ禍で制限があるものの利用者中心に物事を考え、できる事や楽しめる事を提供するという姿勢でサービス提供を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分たちで話し合っって作った理念を掲げ、実践に繋げるように努めている。また いつでも振り返りができるように職員全員が携帯している。	開園当初から地域との繋がりを意識した理念を掲げ、いつでも確認できる状態にある。職員間で共有し、常に理念に基づいたケアを実践できるように意識している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防のため、地域と交流する機会は少なかったが、地域の方やご家族様にハールト新聞や利用者様の様子を伝える手紙を送る等している。また、地域の小学校の子供たちが育てた野菜をいただく等している。	地域との繋がりを大切にしており、地域の行事に参加したり、ホームの行事に招待する等している。現在はコロナ禍の影響で自粛しているが、可能な範囲で交流を開催予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への理解や支援方法を知っていただくために、運営推進会議で利用者様の日頃の様子や介護事故・ヒヤリハット・事故防止対策に関して報告し、地域の皆様から意見や助言をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で自己評価や外部評価について、地域の皆様から意見や助言をいただいている。現在は新型コロナウイルス感染予防により、書面で報告している。	コロナ禍のため昨年度から書面会議として行っている。運営推進会議のメンバーに資料を配布して報告等を行い、書面で意見をいただき、サービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルス感染予防のため、会議の開催はできなかった。市町村には年に4回ホームの新聞を配布するほか、実態を理解してもらうために自己評価について報告している。コロナ感染に関する取り組みについて相談し、意見をいただいている。	パンフレットやハールトだよりは、毎回市役所や地域包括支援センターに配布している。また、電話やメール等を使用して相談し、アドバイスをいただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ対策として、身体拘束廃止に関する指針を作成している。3か月に1度は、身体拘束・事故防止委員会を開催し、全職員で話し合いをしている。また、内部研修において勉強会も行っている。	3か月に1回、身体拘束や事故防止に関する委員会を開催し、指針・マニュアルの確認や事例検討を行い、身体拘束を行わないという姿勢で日々のケアを提供している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、内部研修で勉強会を開催している。また、接遇の勉強会も行っており、職員は言葉遣いに注意しながら日々のケアで虐待が行われないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や権利擁護について理解を深めるために、年1度勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際は、ホームの取り組みや方針について分かり易い言葉で説明している。分からない事や不安に感じたときは、いつでも職員に聞いていただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や面会に来たご家族様が意見や要望・苦情等を出しやすいように、ホームの玄関先に投書箱を設けている。	利用者に何かあった際は連絡・報告している。その際、些細な事でも意見を聞き出すように働きかけている。家族等が意見や苦情を出しやすいように重要事項説明書に苦情相談窓口を明示したり、玄関に意見箱を設置している。意見や要望は職員間で話し合い、日々のケアに反映する体制となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	内部研修で職員の要望や意見を聞いている。また、年1度職員に自分の評価をしてもらい、個別面談を通して相談や要望について話し合い、改善できるようにしている。	毎月の会議の中で、業務・接遇・環境・感染予防・利用者の人間関係等について意見交換を行い、運営やケアに反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が個々に目標を持ち、努力する姿勢を管理者が見守り、必要時には助言をしている。また、年2回個人面談を行い、職員の思いや希望を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は評価や面談を通し、職員一人ひとりに対して助言やアドバイスをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染予防のため、同業者と直接会う機会はなかったが、メールや電話等で話す機会を設け、意見交換や情報共有を行ってサービス向上につなげるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居から一定期間は、日々の記録をこまめに行い、職員間で情報共有している。会話や表情を観察し、不安に感じている事や生活への要望を見出し、安心できる対応を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご自宅を訪問し、ご家族様やご本人の意向を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できる事、支援が必要である事等、ご家族様の意向を踏まえた計画書を作成している。1か月はインフォーマルサービスを含めたプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な範囲で利用者様と職員と一緒に家事や軽作業を行い、一つ屋根の下で暮らす家族としての関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染予防のため面会制限を行っているが、オンライン面会を行ったり、ホームの新聞やお手紙で生活状況をお知らせしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のためなかなか交流できていないが、オンラインで面会する機会を設け、お互いに顔を見ていただくことで安心してもらえるよう努めている。	コロナ禍のため交流や外出は制限しているが、家族の協力も得ながら通院や近隣への外出等、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や経過等を考慮した席にしている。また、必要に応じて職員が共通の話題を提供・介入し、利用者様同士の関係が円滑に保てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族様からの相談を受け、必要に応じて支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様とのコミュニケーションを大切にしてい、思いや意向を把握するよう努めている。また、上手く思いを表現できない方には、日頃の表情や行動から察知するようにしている。	日常生活の中で、思いや暮らし方の希望、意向を把握するように努めるほか、家族や関係者からも情報収集を行っている。意思疎通が困難な方には、表情や行動を観察し、全職員で話し合っ支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に必ずご自宅を訪問し、これまでの生活環境や好み等を聞き取るほか、これまで利用していた事業所から情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活習慣やできる事の把握をし、心身状態に合わせたご本人らしい生活を提供できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議で利用者様についての情報共有や課題を検討し、ご本人に合った介護計画作成に努めている。	毎月のモニタリングのほか、会議で利用者様の日々の様子を話し合い、本人・家族の思いを基にした介護計画を作成している。サービス担当者会議も行い、現状に即したものとなっている。状態が変わった際は介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録は分かりやすく記載するように心掛けている。職員が情報を共有しやすいように工夫している。また、ケアチェック表にはプランに沿った特記をしてもらい、見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームの雰囲気や季節に合わせた行事を大切にしている。現在はコロナ禍のため、外出はできていないが、ホームの中で楽しんでもらえる行事を企画している。また、写真を掲載したりDVDを作って一緒に鑑賞し、楽しい思い出話をすることができ、より穏やかな生活を送ることができている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の子供たちから学校で育てた野菜をいただいたり、利用者様が作った作品を送る等して交流をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診支援を行っている。また、時にはご家族様にも受診協力をしていただいている。訪問診療・訪問看護時には、日頃の様子や変化等を報告してアドバイスをいただいている。	入居時にこれまでの受療状況を把握し、入居後の受診について意思確認を行っている。利用者・家族が希望する医療機関を受診できるよう支援している。また、協力病院の訪問診療を受けることを伝えるほか、24時間体制の訪問看護には日頃の状態を報告し、アドバイスをいただいている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護時には、利用者様の様子や訪問診療時の医師からの指示を報告し、情報を共有・連携している。また、緊急時には24時間体制で連絡することができ、指示を仰いだり訪問していただく等している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療連携室に利用者様の情報を提供している。退院前には、状態確認と情報を提供していただき、退院後もホームで安心して暮らせるよう関係性を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び看取りの指針を作成しており、ご家族様に説明して同意を得ている。終末期の対応については、利用者様・ご家族様の望む生活支援を掲げ、ご本人の気持ちを大切にしながら、医療・看護・介護・家族の協働で取り組むこととしている。	訪問看護ステーションと24時間体制で連携しており、「グループホームハールトにおける重度化対応に関する指針」を作成して家族へ説明し、同意を得ている。重度化した場合に備えて早期から話し合い、意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に落ち着いて行動ができるように救命救急講習会に定期的に参加している。現在は新型コロナウイルス感染予防のため参加できないでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2度避難訓練を実施し、地域の方にも協力していただいている。現在は新型コロナウイルス感染予防のため、地域の方から協力を得ることができなかった。また、ホーム内の勉強会で災害時の連絡体制や対応について職員間で話し合いをして再確認している。	年2回日中・夜間を想定した避難訓練を実施している。コロナ禍で地域の方の訓練参加は自粛しているが、いざという時の協力体制を構築している。水害についてハザードマップを確認し、市役所と避難場所等を有している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや声掛けについて研修を行い、日頃から利用者様の尊厳を守るように心掛けている。プライバシーについては、トイレにカーテン、自室には希望に応じて暖簾を設置している。	利用者の言動を否定せず、受容的な姿勢を心掛けている。介護時の声掛けは、利用者の羞恥心に配慮して行っている。ホーム全体で日々の確認や更なる向上に向けた取り組みを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすいようにセッティングや声を掛ける等の工夫をしている。上手く言葉で表現できない方には、行動や表情を読み取り選択しやすいように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のその日の気分や体調に合わせてながら思いに耳を傾けている。レクリエーションや家事への参加を無理強いしない範囲で誘っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様が自己決定しやすいように、セッティングや声を掛ける等の工夫をし、好みの物を選びやすいようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の食事は、ご本人の状態や好みに合わせて提供している。行事や誕生日には、ケーキと一緒に作って楽しみながら行っている。また、食後の食器拭き等をお手伝いしていただいている。	高齢者用のケイタリングを一週間毎に外部発注しており、魚や肉、牛乳等の好き嫌いや、禁忌食品等は考慮して発注している。刻み食やとろみ等個々に応じて提供しており、月1回のお弁当の日や外食の日、行事食等食を楽しむ日を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がバランスを考えた献立を作成し、食事を提供している。食事や水分摂取量について毎食観察し、管理している。摂取量の少ない方には、こまめに声を掛け、脱水等にならないように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを徹底し清潔保持に努めている。また、介助が必要な方には見守りや促しをしており、自身でできない部分は介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日排泄チェックを行ってパターンを把握し、トイレ誘導を行っている。また、ゆっくりと排泄ができるような声掛けをしている。	排泄状況を記録してパターンを把握し、自立に向けた排泄支援を行っている。また、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮して行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーション活動や体操等に参加するよう声掛けし、可能な限り身体を動かしてもらえようとしている。また、水分を多く摂っていただいたり、ヨーグルトや乳酸菌を多く含んだ食品を提供している。医師や訪問看護師と連携を図り、薬で調整することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴時に好みの歌やお話をして楽しみながら入浴できるようにしている。また、体調面に気をつけて入浴支援をしている。	1日3人程度の利用者を入浴支援し、週2回の入浴を行っている。一人ひとりの入浴習慣や希望、体調や羞恥心に配慮しながら行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠の利用者様には、ご本人のお話を傾聴して安心できるよう寄り添っている。また、自室の明るさを調整したり、安楽な体位で眠れるよう補助具を利用する等している。日中はベッド休息やソファで過ごす等、好みに応じて休憩していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様に薬を服用していただくときは、目視で名前や日付を確認し、職員で声を掛け合って誤薬防止に努めている。新しく処方されたり、変更があった薬については、全職員が情報を共有できるよう専用のノートに詳しく記載している。また、申し送り時にも伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の家事参加(おぼんや食器拭き)やテーブル拭き・お洗濯たたみ等、個々に応じた役割を担っていただいている。また、天気の良い日には、ホームの外でティータイムや簡単なレクリエーションをして気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防のため外出を控えているが、通常であれば月1度希望をとりながら外出支援をして楽しんでいただいている。また、毎年地域の行事(宵宮や敬老会)に参加し、地域の方と交流を図っている。	外出行事や食事会に出かける等、利用者が気分転換できるように取り組んでいる。現在はコロナ禍で外出を控えているため、敷地内の野外活動やホーム内でのおやつ作りやイベントを増やし、気分転換できるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本当であれば利用者様に金銭管理していただくことが望ましいが、困難な方はホームで管理している。外出時の買い物では、好みの物を自分で選んでもらい、職員と一緒に購入して買い物気分を味わっていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の希望があったときは支援している。また、難聴や意思の疎通が困難な方には、職員が介入して支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じられるように季節感のある食事を提供したり、お花を飾っている。また、ホーム内の壁には、利用者様が作成した作品を展示している。	温度、湿度は定期的にチェックして管理している。共有部分や廊下には、行事の写真や季節感のある展示物を飾っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールテーブルには個々の座席を設けている。また、テレビ前にはソファ、玄関にはベンチ・小上がり等があり、利用者様が思い思いに好きな場所で過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使用していた馴染みの家具を持ち込んでいただいている。ご家族様の写真や知人から届いたハガキ等を部屋に飾る等して、利用者様が安心して過ごせるようにしている。	入居時、馴染みの物を持ち込む必要性について説明し、以前から愛用していた家具類や仏壇、食器、人形等を持ち込んでいただいている。持ち込みが少ない利用者には、写真や自分で作った作品を飾る等して、生活しやすい居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールやトイレ・浴室には手すりを取り付けており、ホール内を散歩される方には、安心して運動ができるスペースとなっている。玄関にはスロープを設置しており、シルバーカーや車いすの方が移動しやすいようになっている。		